明日への扉 No.5

花には思いを伝える 素敵な力があります

Yoshito Fukushige

福重 嘉人さん

昭和50年鹿児島市生まれ、平成11年３月鹿児島大学農学部卒業。平成12年７月輝北町農業公社（現・鹿屋市農業公社）のスプレー菊第１期研修生となり、平成14年にスプレー菊栽培農家として就農。大学時代の同級生・容子夫人との間に２女の４人家族。（39歳）

34アールのハウスで１年間に約35万本のスプレー菊を生産出荷。平成23年度県フラワーコンテストで最高賞の農林水産大臣賞を受賞。仕事はメリハリが大事と、必ず休みを取るよう心掛けている。

学生時代から、農業、とりわけ花づくりに興味がありました。大学卒業後も夢をあきらめず、就農資金を貯めるために、仕事と新聞配達のアルバイトを掛け持ちする生活を送りました。そのような中、二十四歳の時に輝北町農業公社がスプレー菊の第一期研修生を募集していることを知って応募したのが、そもそもの始まりです。

もともと花好きであったことが一番の理由ですが、鹿児島県は一世帯当たりの花の消費量が日本一ですし、私みたいに土地も何も持っていない者にとって、花は小規模で効率的にできる作物ですので、大変魅力的でした。公社での研修は、初めてのことばかりで戸惑いもありましたが、自分で育てたものを収穫し、最終的に箱に詰めて出荷する喜びには感動しました。

二年間の研修を終えて、就農間もない頃は、収穫や選別の時も人手が足りず、労力の面で大変苦労しました。また、就農一年目に、非常に勢力の強い台風に襲われ、ハウスのビニールはもちろん、母株まで飛ばされたこともありました。とにかく何もかもが必死でした。公社研修生初の就農者として前例が無く、この先どうなるのか全く見当がつかなかったので、がむしゃらに働くしかなかったのです。ようやく経営が安定し、心にも余裕ができたのは、就農してから四、五年経ってからのことです。

平成二十三年五月に、「スプレー菊」が鹿児島ブランドに指定された際、同じ菊農家のグループ仲間で、「あなたの心 届けます。」というキャッチコピーを決めました。花は単なる商品ではなく、誰かの思いを伝える大切なものだからです。

その思いを強くさせたのは、同年三月に起きた東日本大震災でした。菊農家にとっては、ちょうど彼岸の時期で花の需要がある時、しかも燃料を多く使う時期だったので、経営を直撃しました。でも、そういう中においても、グループみんなで東北に花を贈りました。

後日、「遺体安置所に安置されている方々に花を一本手向けることができた」と被災地の方々が泣いて喜んだという話を聞き、この時改めて花の大切さを実感しました。もっと花の大切さを伝えていきたいと思います。

最後に、就農を考えている方々に伝えたいことは、具体的なイメージと〝絶対にやるんだ〟という強い思いで頑張ればきっとやれるということです。これも私は実感しています。